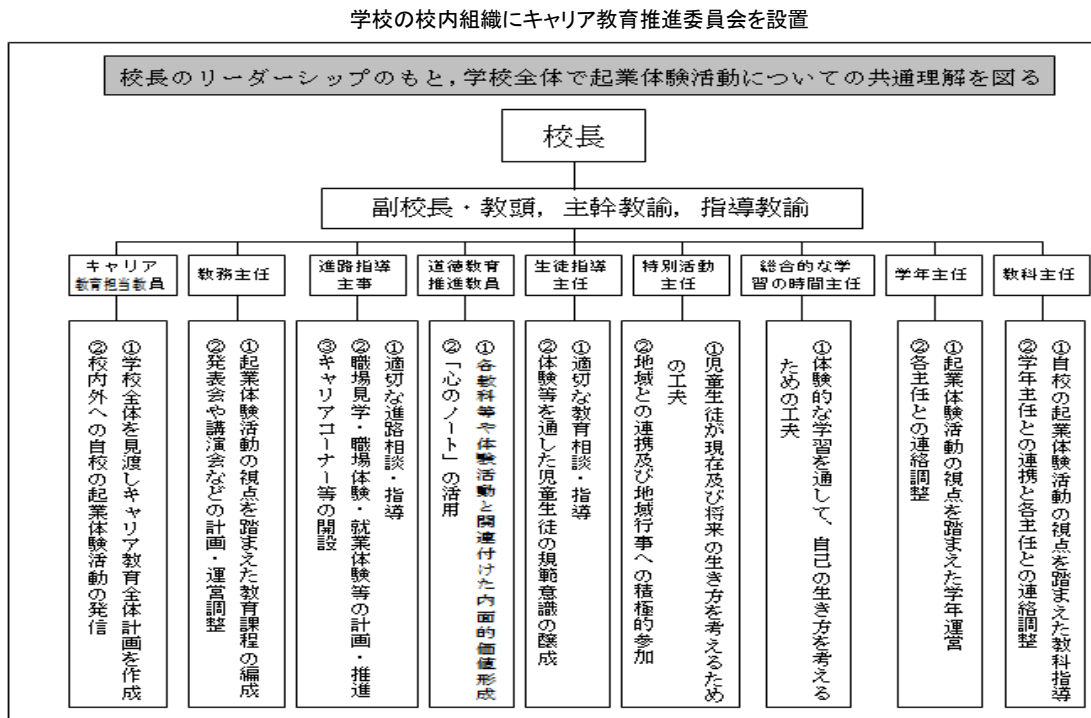


「小・中学校等における起業体験推進事業」実施計画書

1. 実施主体	
本事業を受託する教育委員会	徳島県教育委員会
2. 現状及び課題	
学校及び地域におけるキャリア教育の現状	<p>本県においては、平成25年9月に、学校関係者・経済団体・有識者から組織する「徳島県キャリア教育推進協議会」を設置し、平成26年3月に学校がキャリア教育を推進する上で柱となる「徳島県キャリア教育推進指針」を策定した。本指針では、本県におけるキャリア教育で身に付けさせたい能力・態度の明確化を図るとともに、学校におけるキャリア教育を推進するための施策として企業代表者等による「講演・出前授業」の実施や、「職場体験・インターンシップ」実施の手引の作成、「キャリア教育推進フォーラム」を実施している。</p> <p>また、平成27年度には県内すべての公立学校で「キャリア教育全体計画」が作成され、全県的にキャリア教育を推進するための体制が構築されている。</p>
学校及び地域におけるキャリア教育に関する課題	<p>本県においては、県内すべての公立学校で「キャリア教育全体計画」が作成されており、今後はより実効性がある取組を推進するとともに、本県が目指すキャリア教育について地域や保護者に啓発していくことが課題である。</p> <p>また、本県においては平成27年7月に、「vs東京『とくしま回帰』総合戦略」が策定され、地方創生が推進されており、今後は地方創生を担う人材の育成とともに、変化の激しい社会の中で主体的に人生を切り拓くことができるチャレンジ精神や、人口減少社会を迎え、将来本県において新たな雇用を生み出すことにつながる起業家マインドを育成することが課題である。</p>
3. 委託内容に対する取組	
実施する学校	鳴門市撫養小学校 鳴門市第一中学校 徳島県立鳴門渦潮高等学校
目標	<p>鳴門市撫養小学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ○身近な人々とのコミュニケーションを図り、学び合う中で自己肯定感を持たせる。 ○夢や希望の実現に向かって意欲を持って努力し続ける児童を育成する。 <p>鳴門市第一中学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ○新しい価値を創造し、何事にも意欲的に取り組む能力を育成する。 ○年齢等に関係なく、誰とでも協働的に課題解決に取り組む能力を育成する。 ○探究的な実践を行い、その成果を表現する能力を育成する。 <p>徳島県立鳴門渦潮高等学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ○将来の地方創生に貢献できる起業意欲・意識を持つ生徒を育成する。
取組計画	<p>鳴門市撫養小学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内キャリア教育推進委員会を設置し、各学年においてキャリア教育活動計画を作成する。 ・キャリア教育の取組内容について中間発表・評価を行い、見直しを図るとともに、全教職員間で可視化を図る。 ・商店街の空き店舗を活用した出店・販売体験を実施する。 <p>鳴門市第一中学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育主任を中核とし、「実践研究部」、「研究推進部」、「連携支援部」を組織し、その組織を中心に地域や他校種と連携をしながら起業家教育を推進する。 ・総合的な学習の時間、道徳、特別活動や各教科を関連づけた学習計画を作成し、具体的に実践を進める。 ・地域の企業と連携し、商店街の空き店舗を活用した商品の販売実践を展開する。 <p>徳島県立鳴門渦潮高等学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内組織にキャリア教育推進委員会を設置し、キャリア教育全体計画の作成を図る。 ・各教科・領域・インターンシップ等のすべての教育活動の中で実践する。 ・商店街の空き店舗を活用し、地元企業等と連携し、地域活性化につながる商品開発や広報活動を展開し、起業家マインドの育成を図る。

(1)学校において起業体験活動を実施するためのモデルの構築

①実施体制(図で示すなどわかりやすく記載すること)



②授業をサポートする団体(予定でも可)

○鳴門市撫養小学校をサポートする体制

撫養小キャリア教育推進委員会の設置

(校長・教頭・教務・指導教諭・研修主任・キャリア教育担当者・各学年主任・市役所商工政策課・鳴門市商工会議所・大道商店街 振興組合)

○鳴門市第一中学校をサポートする体制

校内のキャリア教育主任を中核とし、「実践研究部」、「研究推進部」「連携支援部」を組織する。地元の鳴門商工会議所と連携をしながら起業家教育を継続的に推進

授業をサポートする団体として、鳴門教育大学、徳島ニュービジネス協議会と連携し、出前授業等を実施する。

○鳴門渦潮高等学校をサポートする体制

地域と連携したイベント運営委員会の開催。

徳島県倫理法人会、徳島県中小企業家同友会、新撫養農業研究会、大麻町商工会、鳴門大道銀天街商店街組合、鳴門市うずしお観光協会と連携

○徳島県キャリア教育推進協議会の開催。

撫養小学校、鳴門第一中学校、鳴門渦潮高等学校への支援を図るとともに、域内の学校において起業家教育を推進するための体制づくりを行う。

構成団体

- ・徳島県商工会議所連合会
- ・徳島県商工会連合会
- ・徳島県中小企業団体中央会
- ・一般社団法人徳島経済同友会
- ・徳島県経営者協会
- ・徳島県中小企業家同友会
- ・一般社団法人徳島ニュービジネス協議会
- ・市町村教育委員会教育長会
- ・鳴門教育大学
- ・徳島県小学校長会
- ・徳島県中学校長会
- ・徳島県高等学校長協会
- ・徳島県PTA連合会
- ・徳島市・名東郡小学校・中学校PTA連合会
- ・徳島県高等学校PTA連合会

鳴門市撫養小学校

<第1学年>

- ・生活科5月「春のニコニコばたけ」
幼稚園の時に植えたジャガイモとたまねぎを年下の園児と共に、収穫する喜びを味わう。
- ・生活科11月「秋のたからものランド」
自然物を使った飾りやゲームを作って、園児を招待し、一緒に楽しみながら秋の自然を味わう。
- ・生活科2月「小学校！たのしいよ」
入学前の園児を小学校に招待し、一緒に様々な学習や活動をする。1年生には年長者としての自覚を育て、園児には小学校に対する期待をもたせる。

<第2学年>

- ・生活科5月～7月「ぐんぐん育て」
地域の人に野菜作りについて収穫まで教えていただき、ふるさと愛を育む。
- ・生活科5月～10月「むやっこたんけんたい」
商店街へ見学に行き、交流を図る。

<第3学年>

- ・総合的な学習の時間6月～11月「まちのすてき発見」
校区内の工場や量販店等の見学や聞き取り調査をしながら、自分たちの住むまちを紹介するパンフレットづくりをし、商店街や観光施設に置いていただく。

<第4学年>

- ・社会科12月「焼き物を生かしたまちづくり」
鳴門市の伝統工芸品である大谷焼の職場見学を行い、地域のよ さや地場産業を知り、地域に対する理解を深める。
- ・総合的な学習の時間5月～11月「あったかほっと 撫養の町」
病院、図書館、介護施設、市役所の見学を行い、働く人の温かい思いを知ること、相手の立場に立って行動できる気持ちを育む。

<第5学年>

- ・総合的な学習の時間「かがやきプロジェクト」
4月～5月 家族・修学旅行でお世話になった人など様々な人・たくさんの方が自分に関わってくれていることを感じ取り、感謝の気持ちを醸成する。
6月～11月 ドイツ館への見学を行い、「なると第九」の秘密を探る。松江豊寿所長の考え方をすることで、自分の生き方を考える。また、「なると第九」を発表すると共に鳴門の良さをアピールする。

<第6学年>

- ・総合的な学習の時間5月～12月「大好き 撫養 ドリームプラン」
「こんな商店があったらいいな」「こんな場所があったらいいな」「こんな商品ができないかな」を考える過程で、ふるさと撫養の将来を展望すると共に、夢を持ちチャレンジする気持ちをもたせる。

5月 商店街100円ショップ見学

5月～11月 商店街100円ショップ参加のための見学・講師による講話・計画
鳴門第一中学校、鳴門渦潮高校との連携 作品掲示・商品開発

取組をサポートする出前授業の実施

「100円商店街」参加のための講師(市役所・商工会・商店街振興組合の関係者)による講話や活動への指導

- ①基本的な考え方 自己責任 自分力
- ②株式会社とは
- ③商品企画書とレシピづくり
- ④商売とは
- ⑤大道商店街の見学
- ⑥ドリームプランづくり
- ⑦店づくりプラン
- ⑧ビジネスマナー 帳簿の付け方
- ⑨株主等へのプレゼンテーション
- ⑩「100円商店街」出店
- ⑪まとめセミナーとドリームレポート(今後の夢)発表

11月 商店街100円ショップ出店

鳴門第一中学校

大規模校のため、第2学年を中心に起業家体験活動を実施し、学習報告会で他学年に普及する。

・○教育課程上の位置付け・・・【総合的な学習の時間】

○内容・・・鳴門の自然や産業を生かした商品等を開発する。小グループで検討を重ね、値段設定や宣伝活動などをふくめ、具体的な販売実践を校区内の商店街で行う。

○実施時期・・・・・・・・（11月） 撫養小学校・鳴門渦潮高校と連携し、同時期に実施する。

○教科との関連

[国語科]・・・手紙を書く （9月）

[社会科]・・・身近な地域の調査 （1月）

○道徳科との関連

内容項目4-(5)（10月）4-(8)（1月）

○職場体験活動・・・・・・・・（1月）

○キャリアアドバイザーによる講話

・企業の方から、「社会人として必要な資質や能力」

・地元の商工会の人から、「商工会の取組」

・地元で起業をした人から、「起業についての話」

○校種間の連携

・小学生との交流会・・・・・・・・（8月）

・各校種間の連携協議会の開催

徳島県立鳴門渦潮高等学校

〈第1学年〉

・地域の職業人に学ぶ講座より、仕事への理解や自分の生き方について考えさせる。（5回、5～9月）

・鳴門に学ぶ地域学講座より、地域の良さを再発見する。（2回、11月）

・鳴門大道商店街に学ぶ講座より、地域活性化に貢献する意識を醸成する。（2回、9月）

・地域起業家と六次産業を学ぶ講座より、地域産業を理解する。（2回、10月）

・撫養小学校、鳴門第一中学校、地域・保護者と連携した学習発表会を開催し、発信する。（2月）

〈第2学年〉

・地域企業を支える社長との交流会により、起業家の精神を養う。（9月）

・地域商店街と鳴門市うずしお観光協会訪問し、地域の活性化に向けての課題を考える。（7月）

〈第3学年〉

・鳴門に学ぶ地域学講座を開催し、地域活性化に向けての課題を見出し、解決するための意欲を養う。（1回、4月）

〈総合ビジネス系列〉

・地元商店街の空き店舗を活用した「UZU cafe」を設営・運営する。年間を通して、地域と連携した運営委員会の開催や、イベント企画・商品開発等を行い撫養小学校や鳴門第一学校と連携し、地域活性化に向けてのチャレンジ精神を培う。

講師及び内容の予定

「職業人に学ぶ」講座

●「やればできる！」株式会社 松島組代表取締役

●「心豊かに生きるために」 ライフスタイルプロデューサー

●「NPO法人新町川を守る会の活動」 NPO法人新町川を守る会 理事長

●「徳島の特産品をIT活用でアジア戦略」 徳島県情報産業協会会長

●「社会人になるには」 徳島県中小企業家同友会

●「今、高校生に伝えたいこと」 徳島県中小企業家同友会

「地元商店街に学ぶ」講座

●「株式会社って何だろう？」

●「企画書について」

●「商売とは何だろう」

●「店舗づくりを考える」

●「地元経営者から学ぶ」

●「鳴門を学ぶ地域学」講座

●「鳴門市の観光の魅力について」 鳴門市うずしお観光協会

●「世界に誇る鳴門の魅力」 鳴門市観光ボランティアガイド

(2)域内の学校に普及するための取組

①域内の学校への普及方法について

- ・小中高等学校キャリア教育担当教員等の研修会において、実践発表を行うなど広く啓発を行う。
- ・本事業における報告集を作成し、県内公立学校に向けて発信する。

②地域・保護者等への周知方法について

- ・地域及び保護者と連携した学習発表会の開催
- ・実施内容のホームページ公開
- ・地元の広報の冊子等にも情報を提供
- ・参観授業やオープンスクール、学校バザーでの周知
- ・学校だよりや学年だよりの発行

(3)その他の取組

- ・学校における起業体験活動推進に向けて、経済団体等と連携し、域内における「講演・出前授業」を実施する。
- ・起業体験活動について専門的な知識を有する講師を開拓し、県教育委員会が構築している「あわ教育サポーター企業等データベースシステム」に登録することで広く学校に広報する。
- ・「徳島県キャリア教育推進協議会」を開催し、推進校への支援を図る。

4. スケジュール

実施時期	実施内容
4月	各学校における「キャリア教育全体計画」、教科・領域における「年間指導計画」の作成
5月	起業体験活動推進に向けた「講演・出前授業」の開始
6月	「徳島県キャリア教育推進協議会」開催
6月～	地元商工会議所と連携した運営協議会の開催
7月	各学校における地元商店街、企業と連携した商品企画案及び商品開発
11月	地元商店街における出店体験・販売・模擬会社の設立
12月～	地元商店街における活動
2月	地域と連携した学習発表会
2月	「徳島県キャリア教育推進協議会」における報告
3月	報告書の作成・発信

5. 取組により見込まれる成果とその検証方法

見込まれる成果

- (1) 経済団体・企業と連携した起業体験活動推進のための「講演・出前授業」を実施することにより、地域の企業や経済、産業への理解につながり、児童生徒に地域への愛着心や起業家マインドの育成が期待される。
- (2) 地元商店街における空き店舗を活用した出店や販売体験を実施することにより、仕入から販売までの一連の難しさを理解することができるとともに、商品企画について子供たちが自ら考え工夫することができる力の育成が期待できる。
- (3) 出店を行う過程で、失敗体験や成功体験を積み重ねることにより、自己肯定感の高まりが期待できる。
- (4) 地域における探究活動や地域の人々に関わることにより、地域を理解し、仲間と協力することの大切さについて学ぶことができる。
- (5) 地域や保護者に対する学習発表会を開催することにより、学校におけるキャリア教育についての理解が深まるとともに学校・地域間連携の促進につながる。
- (6) 地域の小中高校を指定することにより、起業体験活動における系統的・体系的なモデルの構築につながり、県内外に発信することができる。
- (7) 地域の小中高校生が連携して、地元の空き店舗を活用して出店することにより、地域活性化につながる事が期待できる。

検証方法

活動について、児童生徒アンケートや意識調査などの自己評価を実施することにより、評価・検証を行い、現状を把握するとともに、次年度に向けての課題等を検証する。

- (1) 児童生徒による自己評価
- (2) 起業家及び地域の方々へのインタビュー
- (3) 学校評価アンケート
- (4) キャリア教育研修会等での発表についてのアンケート
- (5) 開発した商品に対する評価